# 大豆技術情報　第3号

令　和　５　年　７　月
富山市農業協同組合
富山農林振興センター

**「莢数確保のための畦間かん水」「適正な病害虫防除」「早めの雑草対策」を徹底し、品質・収量の高い大豆づくりを目指しましょう！！**

## 1. 畦間かん水

～開花期以降のかん水で、落花・落莢、青立回避～

畦間と額縁排水溝を連結し、入排水を促進

かん水を必要とする葉が裏返った状態の大豆

・培土作業でできた溝と額縁排水溝は必ず連結して排水口につなぎ、スムーズに入水、排水ができるようにしましょう。

・**開花期頃（全株数の 40～50%が開花）から、９月上旬頃までの間に３日以上晴天日が続くと見込まれる場合は、積極的に畦間かん水を行い、落花・落莢を回避し、莢数の確保に努めましょう。**

・畦間かん水は短時間で実施し、ほ場全体に水が行き渡ったら水口を止め、速やかに排水しましょう。

## 2. 雑 草 防 除

・培土後も残草が見られる場合は、雑草の種類や生育状況を確認し除草剤を散布しましょう。

**○難防除雑草（帰化アサガオ類、イヌホオズキ類、ヒユ類）が増えています。**
早期発見に努め、見つけ次第速やかに防除（手取り除去，除草剤散布）してください。

帰化ｱｻｶﾞｵと大型雑草に覆われた大豆ほ場

表１　大豆の生育期処理除草剤

| 対象雑草名 | 薬　剤　名 | 使　用　時　期 | 使用方法 | １０ａ当たり散布量 | 本剤使用回数 |
|---|---|---|---|---|---|
| １年生雑草 | バスタ液剤（非選択性除草剤） | 本葉５葉期以降、雑草生育期 但し、収穫 28 日前まで | 畦間・株間処理 | 薬量 300～500mℓ（水 100ℓ で希釈） | ３回以内 |
| | ロロックス（非選択性除草剤） | 本葉３葉期以降、雑草生育期（雑草の草丈 15ｃｍ以下） 但し、収穫 30 日前まで | | 薬量 100～200g（水 70～150ℓ で希釈） | １回 |

※バスタ液剤、ロロックスの散布は吊り下げノズルを用い、**大豆に薬剤がかからないよう**注意して散布してください。

## 3. 病害虫防除

～適期の病害虫防除により、高品質な大豆に仕上げましょう！～

表２　薬剤と散布時期の目安

| 防除体系 | 防除時期の目安 | | 対象病害虫 | 薬　剤　名 | 使用時期 | 10a当たり散布量 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 随時 | 7月下旬～8月上旬（葉が巻き始めたら） | | ウコンノメイガ | ダントツH粉剤DL | 収穫7日前まで | 4kg |
| | | | | プレバソン フロアブル5 | 収穫7日前まで | 希釈倍数 4,000 倍 使用液量 150～300ℓ |
| **基本（1回目）** | **莢が伸びきった頃** | **8月 10 日頃** | **紫斑病** | **Ｚボルドー粉剤 DL** | **－** | **3kg** |
| | | | **カメムシ類** | **スミチオン粉剤3DL** | **収穫 21 日前まで** | **4kg** |
| **基本（2回目）** | **1 回目の 10 日後** | **8月 20 日頃** | **紫斑病 カメムシ類 ﾏﾒｼﾝｸｲｶﾞ** | **トライトレボン粉剤 DL** | **収穫 14 日前まで** | **3kg** |

※防除の際は、農薬使用基準を必ず守り、風向き等に注意し、周辺への飛散防止に努めましょう。

○カメムシの加害が著しいと、大豆が青立ちする場合があります。

○８月下旬～９月上旬に、カメムシ類が多い場合は、ダントツ剤等で追加防除を行いましょう。

イチモンジカメムシ（約 1cm）

ホソヘリカメムシ（約 1.5cm）

大豆を加害するカメムシ類※（　）は体長

○マメシンクイガは幼虫が大豆の子実を加害するため、収量や品質に影響します。

○例年、被害の多い地域では８月下旬～９月上旬に、ダントツ剤及びプレバソン剤等で追加防除を行いましょう。

ﾏﾒｼﾝｸｲｶﾞによる加害

**○農作業の際は、適切な水分・塩分補給やこまめな休憩など、熱中症対策を徹底しましょう！**